

column 《現場風景・あかり光景》102

『ジャックと豆の木』の巨大な豆の木の根元を彩る天の川のカケラ!?
～クライミングウォールを巡る「あかり光景」～

いつか広い家に暮らせるようになったらこんなクライミングウォールを設置したい!?

天井から生えてきたような、この少々いびつで太い柱は、クライミングウォールだ。撮影場所は愛媛県西条市の「モンベル・アウトドアオアシス石鎚」というアウトドア複合施設内。

この写真を本欄で取り上げるのは、天井の素朴な照明に惹かれたからである。巨木を想わせるクライミングウォールは、まるで『ジャックと豆の木』の天上まで続く豆の木の根元のようにみえるのと、一目でなぜか感動してしまっただった。

白い天井は分厚い雲海で、その上には天上界にまで延びる豆の木がまっすぐ立っている。そして雲海（天井）に灯る素朴な光は雲の上に展開しているに違いない。ミルキーウェイ（天の川）のカケラであるというふうには、妄想をつい逞しくさせたくなる。

単なるシンプルな照明といえは、いえるのだが、みる人の感性にマッチした「あかり光景」には、人それぞれの体験などに基づく記憶が増幅されながら、新たな光景

（像）を結んでしまう。

まさに妄想なのだ（笑）。しかし、筆者の場合をいえば、自分でも不思議なだけけれど、このなんてことのない照明から、学生時代に奥只見地方でみた天の川や蛍の乱舞を実際に連想してしまっただから仕方ない。

西条市にはその他、『モンベル・アウトドアオアシス石鎚』からも程近い石鎚山の麓に『石鎚クライミングパークSAIJO』というスポーツクライミング施設もある。地域を挙げてクライミングに力を入れているのだ。そこには国際的な競技会にも使えるボルダリング&リード用のクライミングウォール（高さ15m）や、スピード競技用のウォール（高さ15・9m）も完備しており、2020東京の際には強豪国・オーストラリアなど、各国の代表チームが練習会場にする予定があったらしい。

しかし、新型コロナ騒動でそれが実現するの否か予断を許さない状態が続いているのは、気の毒な限りというしかない。（ヤモリ）